

研究資源共有化システム ニュースレター

第3号

2011年
10月31日

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 研究資源共有化事業委員会
Inter-University Research Institute Corporation National Institutes for the Humanities The Committee of Resource Sharing Project
<http://www.nihu.jp/sougou/kyoyuka/system/index.html>

巻頭言 歴史文化情報資源保全の課題

人間文化研究機構理事 石上 英一

2011年3月11日の東日本大震災の救援復興に関わり、6月25日、日本歴史学協会・日本学術会議史学委員会共催の史料保存利用問題シンポジウムにおける東北大学平川新氏の「東日本(東北・関東)大震災と歴史資料の救出」の報告を聞いて考えた。平川氏は、2003年の宮城北部地震後に活動を始めた宮城歴史資料保全ネットワーク(2007年にNPO法人)の代表であり、「災害から古文書を守り、千年後まで残すための取り組み」として、今次の震災による文化財レスキューに取り組まれている。平川氏は報告の最後に、今次大震災で「資料保存をめぐる、思いもかけない問題点」が明らかになったとして次の如く述べられた。2003年以降の活動では、「災害時におけるリスク分散」のために「写真版とDVDデータ」を「古文書所蔵者、地元教育委員会、東北歴史博物館、東北大学」の「4か所に保存」してきたが、「宮城県内での複数保管はリスク分散にならない」ことが明らかになった、「歴史データ 列島全域での分散保存体制の構築」や「国立博物館、大学などによる歴史データの共有化とリスク分散管理体制」の検討が「歴史資料を千年後まで残すために長期的国家事業として取り組むべき課題」としてであると指摘されたのである(「 」内は平川氏レジュメより引用)。

平川氏の「歴史データの列島全域での分散保存体制の構築」の提言に、昨年3月まで東京大学史料編纂所で史料編纂事業に携わっていた経験を持つ者として、重要な課題が提示されたと直感した。史料編纂事業では、日本全国の明治維新时期以前の文書・記録調査と複本作成を、明治18年(1885年)から継続しており、戦後は文部省の維新史料編纂事業も継承し、また在外日本関係史料の調査・複本収集も行っている。史料収集は、原本は現地に残すために、影写本(透き写し本)、謄写本(定形料紙への見取り写し本)、写真版(フィルム、プリント、デジタルデータ)、模写などの複本作成により行われている。収集史料を読解分析した成果は、『大日本史料』『大日本古文書』、更に戦後には加えて『大日本近世史料』『大日本古記録』『大日本維新史料』『日本関

係海外史料』などとして刊行公開している。また戦後は、収集史料の目録と複本も公開している。複本のみ残る、関東大震災・太平洋戦争などでの滅失史料も少なくない。

近世の各藩の史料収集・史料集編纂事業も、近代において一部の有力大名系華族などで継続され、現在に伝えられている。大正デモクラシー期に始まり戦後に急展開した社会経済史研究により、近世を中心とした地方史料、町方・商業史料、藩制史料の調査・収集も進み、地方自治体による地域史誌編纂のための史料調査収集も展開している。文学・歴史・宗教など各分野の関わる典籍の目録作成は『国書総目録』として出版された。国文学研究資料館の日本文学及び関連する原典資料調査研究事業が展開され、複本としてマイクロフィルム・デジタルデータが集積されている。

国文学研究資料館の日本文学及び関連資料調査研究事業、史料編纂所の史料調査事業、地方自治体の地域史誌編纂事業などでは、史料現地保存を原則として複本が作成されている。しかし、これらの事業による複本類は各機関内で写本の写真版やデジタルデータが作成されることはあっても、原蔵者の所蔵権の尊重の必要から、多くの場合関係当該機関内での保管公開に限定されている。そして、資料館、博物館、図書館、教育研究機関の所蔵する原本の複本(デジタルデータを含む)が他機関に保存委託されていることは多くはない。

だが、平川氏の提言を聞くとき、地域の史資料の複本を原蔵者と事業機関に保管することだけで、日本列島の歴史文化の情報資源を大規模災害(戦乱は二度とないとして)から守りきれぬのか、真剣に考えねばならない。各事業は目的も主体も異なり、所蔵者も多様であり所蔵権も守られねばならない。しかし、日本列島の歴史文化情報資源を「千年後まで残すため」には現状のままでよいのか。これは、学界・社会における人間文化研究情報資源の保全と共有化の課題ではないのかと考えるのである。

中国環境問題研究データベース

人間文化研究機構総合地球環境学研究所
松永 光平

人間文化研究機構（以下、NIHU）では2006年度から関係大学・研究機関と協力して地域研究推進事業を開始した。同事業「現代中国地域研究」は2007年度に始まり、全国6つの大学や研究所に研究拠点を設置した。NIHU総合地球環境学研究所の中国環境問題研究拠点はその研究体制の一翼を担い、中国環境問題を自然現象と人間文化の両面から総合的にとらえるとともに、中国環境問題に関する新たなネットワークを構築することを目的としている。

近年、中国の環境問題を研究テーマとした文献数は飛躍的に増加している。しかし、これまでは中国の環境問題に関する文献リストはごく限られており、個々の文献リストは速報性や網羅性に欠けていたため、中国環境問題研究の全体像を把握しがたかった。

文献リストが日本のインターネット上で公開された数少ない事例として、「中国の環境研究文献集」ホームページがある。これは1997年度、国際大学グローバルコミュニケーションセンターが、電力中央研究所有識者会議環境研究グループの活動の一環として作成したものである。このホームページは、中国の環境問題に関する研究文献の中から、約100本を精選し電子化したもので、主に中国の環境研究に関心を持つ研究者・学生を対象にインターネット上で提供することを目的としていた。作成されたリストは多分野の文献を網羅しており、画期的な試みであったが、現在、同ホームページは利用できなくなっている。

一方、中国環境問題研究拠点では、「中国環境問題研究ポータル」(<http://www.chikyu.ac.jp/rihn-china/activity.html>)において、中国環境問題に関わる2009年以降発刊の書籍・論文リストなどを公開してきた。これは、NIHU地域研究推進事業経費（現代中国）で作成したものである。しかし、予算とスタッフ数の制限から、掲載できる文献情報の速報性・網羅性には欠けていた。

そこで、当拠点では2010年度、NIHU研究資源共有化事業の支援を受け、nihuONEシステムを利用し、中国の環境問題に関する書籍・論文（日本語・中国語・英語）のデータベースを作成した。既存の中国の環境問題に関する文献リストを踏まえ、各種文献データベースを活用して関連文献を探索することにより、中国環境問題研究に資する文献を選定した。

文献の選定基準は以下の通りである。

(1) 検索エンジンで必要な文献を発掘する技術にハンディキャップのある人が、新たに中国環境問題研究を開始するための手がかりを提供するため、中国の環境問題に関する基本書籍や基本論文を選んだ。

(2) NIHU地域研究推進事業の成果の社会への還元を促進するため、NIHU地域研究推進事業「現代中国地域研究」の各年度研究実績報告書に記載されている研究成果（単行本・論文）のうち、中国の環境問題に関わるものを選び出した。

(3) ILLなどを通じた文献の公共利用を視野に入れ、中国環境問題拠点が所有する文献や、NIHU研究資源共有化事業で購入した文献を選定した。

(4) その他、中国の個々の環境問題（大気・水・土壌の汚染、生物多様性減少や砂漠化、食料・エネルギー・廃棄物問題など）に関する最新の研究動向を知るため役立つものを、できるだけ多く収録するよう努めた。

NIHU研究資源共有化事業の支援により、選定作業者を増員した結果、単行本715冊（日本語259冊、中国語193冊、英語263冊）、論文1,023本（日本語791本、中国語16本、英語216本）をデータベースに収録することができた。3ヶ国語の多数の文献を収録したため、本データベースは、中国環境問題研究において今後取り組みが求められる領域の発見につながり、日本の中国環境問題の研究レベル向上に資するものと思われる。

今後は、出版予定の書籍や掲載予定の論文も本データベースに適宜追加していくことにより、中国の環境問題に関する最新の研究動向を発信することを目指す。また、データベース利用者の便を図るため、データベースに収録された文献の一覧を中国環境問題研究拠点「中国環境問題研究ポータル」に掲載していく予定である。

総合地球環境学研究所 総合地球環境学研究所 Research Institute for Humanity and Nature
中国環境問題研究拠点
中国环境问题研究基地
RIHN Initiative for Chinese Environmental Issues

日本語 中文 English

中国環境問題研究ポータル

- ◎ 文献 (2010年) 中国環境問題関連書籍リスト(英文)
- ◎ 文献 (2010年) 中国環境問題関連書籍リスト(中文)
- ◎ 文献 (2010年) 中国環境問題関連書籍リスト(和文)
- ◎ 文献 (2010年) 中国環境問題関連論文リスト(英文)
- ◎ 文献 (2010年) 中国環境問題関連論文リスト(和文)
- ◎ 研究会 (2010年12月14日 10:30~16:30) アジア動向セミナー「変容する中国の環境規制 現状とその対応策」(東京・大田区産業プラザ)
- ◎ シンポジウム (2010年11月30日) 九州大学東アジア環境研究機構「第2回中国・太湖の水環境と水体系保全に関する国際シンポジウム」(中国)

人間文化研究機構
現代中国地域研究
中国環境問題研究ポータル

早稲田大学 幹事拠点
東京大学 拠点
慶應義塾大学 拠点
京都大学 拠点

中国環境問題研究ポータル

統合検索システムの新規参加データベースの紹介

統合検索システムは、利用者がワンクリックでアクセスしやすいように、2011年6月から、URLを、

<http://int.nihu.jp/>

としました。また、統合検索システムのニックネームを、

nihuINT

としました。これは人間文化研究機構(NIHU)の統合検索システム(Integrated Retrieval System)の略称です。

検索対象データベースのうち、国立歴史民俗博物館の「民俗誌データベース」と「宮座研究論文データベース」が、同館での公開終了に伴い、2011年9月より検索対象から外されました。

2011年4月以降に、統合検索システムの検索対象に参加したデータベースは、次の4件です。

〈国文学研究資料館〉

■歴史物語

〈nihuONE〉

■日中戦争期中国研究文献

■西周『百学連環』

■中国環境問題研究

資源共有化事業では、人間文化研究機構の地域研究推進事業の研究成果としての研究情報資源の公開の場として、nihuONEシステムを活用することを進めています。2009年度に、現代中国地域研究の財団法人東洋文庫現代中国研究知資料室の大澤肇研究員が提供された「中華教育界目録」(「研究資源共有化ニュースレター」第2号参照)を公開し、2010年度からnihuINTに参加していただ

ています。2010年度には、大澤肇研究員に「日中戦争期中国研究文献」、京都大学人文科学研究所附属現代中国研究センターの袁広泉客員准教授に「西周『百学連環』」、総合地球環境学研究所松永光平研究員に「中国環境問題研究データベース」を提供していただき、2011年6月からnihuINTにも参加していただきました。

次に、新規参加4データベースの概要を紹介します。

〈国文学研究資料館〉

■歴史物語

栄花物語、大鏡、今鏡、水鏡、増鏡の原本テキストデータベース。栄花物語は個人蔵版本。大鏡、今鏡、水鏡、増鏡は国文学研究資料館所蔵版本。49,599件

〈nihuONE〉

■日中戦争期中国研究文献

最近10年間(2001～2010年)の日本における日中戦争期中国(1931～1945年)についての研究文献データベース。1,154件

■西周『百学連環』

本データベースは、西周『百学連環』において、西自身が欧語に対して和訳などの説明をほどこした語彙を採録したものである。『百学連環』の底本は、大久保利謙編『西周全集』第4巻(宗高書店、1981年)所収の「甲本」と「乙本」である。2,136件

■中国環境問題研究

中国環境問題に関する研究文献の総合データベース。本データの一部は、人間文化研究機構地域研究推進事業「現代中国地域研究」による成果である。1,096件

(研究資源共有化事業委員会 石上 英一)

人間文化研究機構の機関データベースの紹介

人間文化研究機構を構成する6機関が公開しているデータベースには、統合検索システム(nihuINT)の検索対象となっていないものがあります。nihuINTの検索対象とならないデータベースには、予算などの都合で横断検索用のメタデータ作成待ちのもの、メタデータ作成に技術上の困難があるもの、限定公開されているもの(機関での利用者登録を要するもの、機関内施設での利用に限定されるもの)、原データの著作権等が他者にあるもの、公開されているが開発途上にあるもの、機関内横断検索エンジンなどがあります。各機関の研究成果と、所蔵する研究資源の公開の促進のために、nihuINTに参加していない機関データベースを紹介します。

なお、内容は、各機関のホームページのデータベースの概要をご参照下さい。

国立歴史民俗博物館

旧高旧領取調帳データベース
地域蘭学者門人帳人名データベース
文化財材料(色材)知識データベース

▼利用者登録の必要なDB

東大寺文書目録データベース
左経記データベース

天文日記データベース
兵範記データベース
山槐記データベース

▼ 来館利用のDB

日本民謡データベース
大乘院寺社雑事記データベース
吾妻鏡データベース
玉葉データベース

国文学研究資料館

マイクロ/デジタル資料・和古書所蔵目録
日本古典資料調査データベース
古事類苑データベース
日本実業史博物館コレクション
伊豆葎山江川家文書データベース
日本文学国際共同研究データベース

イタリア論文(画像・目録),イタリア語に翻訳された日本文学,
フランス語に翻訳された日本文学(SFEJ),フランス語に翻訳
された日本文学(Francine HÉRAIL編),フランス語に翻訳
された漫画,日本学研究データベース(SFEJ),日本学研究
データベース(Francine HÉRAIL編),日本学研究データ
ベース(Patrick Beillevine編)[フランス],日本学論文・翻訳
データベース(Patrick Beillevine編),日本学研究データ
ベース[インド],韓国日本学総覧(研究者編)
(新奈良絵本画像データベースはnihuINTに参加済)

国立国語研究所

現代日本語書き言葉均衡コーパス・少納言
雑誌『国語学』全文データベース
米国議会図書館『源氏物語』翻刻全文データベース
日本語ブックレット文献検索

▼ 利用者登録の必要なDB

現代日本語書き言葉均衡コーパス・中納言
日本語学習者による日本語作文と,その母国語との対訳
データベース(作文対訳DB)
日本語学習者による日本語/母語発話の対照言語データ
ベース(発話対照DB)
日本語学習者会話データベース

▼ 2011年度後期nihuINT参加予定

CONTENTS

歴史文化情報資源保全の課題 石上 英一 1
中国環境問題研究データベース 松永 光平 2
統合検索システムの新規参加データベースの紹介 3
人間文化研究機構の機関データベースの紹介 3

日本語研究・日本語教育文献データベース
『日本言語地図』地図画像データ
国立国語研究所蔵書目録データベース・雑誌目録(書籍目
録は参加済)
『方言文法全国地図』画像データ

国際日本文化研究センター

所蔵図書データベース
WebGIS日本全図
平治物語絵巻「六波羅合戦の巻」デジタル復元図
日中歴史研究センター旧蔵書目録
怪異・妖怪画像データベース
家族史・人口史文献データベース
ラージマップ 高精細空中写真 WebGIS—
連歌連想語彙データベース
古事類苑全文データベース
古事類苑ページ検索システム
米国議会図書館所蔵承応版源氏物語
浮世絵芸術データベース

▼ 利用者登録の必要なDB

外像データベース
古写真データベース
艶本資料データベース
長崎古地図データベース
民事判決原本データベース

▼ 2011年度後期nihuINT参加予定

日本語語彙研究文献データベース

国立民族学博物館

韓国生活財データベース
George Brown Collection
ネパール写真データベース
松尾三憲旧蔵絵葉書コレクション
吉川「シュメール語辞書データベース」
ポントック語音声画像辞書(英語版)
近代日本史の身装電子年表

(研究資源共有化事業委員会 石上 英一)

研究資源共有化システム ニュースレター 第3号

発行日 2011(平成23)年10月31日
発行・編集 大学共同利用機関法人 人間文化研究機構
研究資源共有化事業委員会

〒105-0001 東京都港区虎ノ門4-3-13 神谷町セントラルプレイス2階
TEL 03-6402-9200(代表)